

## 総社市教育委員会会議録

- 1 開 会 平成26年10月14日 午前10時
- 2 閉 会 平成26年10月14日 午後0時12分
- 3 場 所 総社市保健センター1階 運動指導室・健康相談室
- 4 出席又は欠席した委員

### 出席委員

委員長	林 直 人
委員長職務代理者	米 谷 正 造
委 員	小鍛治 一 圭
委 員	下 山 洋 子
委 員	三 宅 眞砂子
委 員（教育長）	山 中 榮 輔

- 5 会議に出席した者

教育次長	矢 吹 政 行
参事兼庶務課長	三 村 和 久
学校教育課長	東 長 典
生涯学習課長	佐 近 昇
文化課長	谷 山 雅 彦
庶務課課長補佐	富 森 賢 一

- 6 会議録署名委員

米 谷 正 造	下 山 洋 子
---------	---------

- 7 付議事件

議案第22号 総社市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書について 原案可決

議案第23号 総社市教育委員会表彰について 原案可決

- 8 議事の概要 別紙のとおり

開会 午前10時00分

**林委員長** ただいまから教育委員会を開会いたします。

この教育委員会には、議案2件が付議されております。

では、まず、会議録の署名委員についてであります。

会議録署名委員は、会議規則第19条の規定により、出席委員中、米谷委員、下山委員の2名をお願いします。

**林委員長** では、議案第22号「総社市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書について」事務局から説明願います。

各所管課長 【事務局説明】

**林委員長** ただいま事務局から説明がありました議案第22号について質問はありませんか。順番にお聞きしたいと思います。

まず最初に生涯学習課の取り組み等について、ご質問等ございましたらお願いします。

**三宅委員** 雪舟スクールサポーターっていうのは、何か特別な資格があつて、研修なんかを受けられてされているのですか。それから、報酬があるのかどうか、その辺りを教えていただきたいと思います。

**佐近生涯学習課長** 雪舟スクールサポーターにつきまして、これは学校支援ボランティアの一つの形ということで、総社市でやり始めた事業でございますが、ボランティアでございますので、報酬はございません。これはそれぞれの特技というか、地域の方々の特技を子供達に伝えられるようなものがあつたら、それを通して子供達と関わっていただくということを考えています。

**林委員長** 他にどうでしょうか。

**米谷委員** 今言われました雪舟スクールサポーターと学校支援地域本部。非常に活動されていいなと思いました。学校支援地域本部はおそらく県内でも数とか割合とかたぶん非常に上位のところだと思いますので、いいなという風に思います。あと雪舟スクールサポーターの方も、高齢者の方が予定の何倍も登録されていて、お互いのためになるというか、元気になっていいなと。サポーターの方の生きがいも含めて地域貢献ということで。

一点、満足度、例えば家庭地域教育力の向上のところ満足度っていうのがあるんですが、他の項目でも満足度ってあるんですけど、これ受講者の方の質的なものだと思うんですけど、どれぐらいの数の、参加の量的な拡大という辺りも合わせて評価されれば、また市内の人権教育のところでもございましたけど、そういうものの広がりもあるのかなという風に思いました。

**佐近生涯学習課長** ありがとうございます。雪舟スクールサポーター、学校支援ボランティ

アにつきまして、高齢者、だんだんと全体が高齢化していくというようなことで人数が増えていく部分もあると思いますが、ボランティアの方々が過去に身につけたことを子供達に伝えていくということで、大変な生きがい作りにはなっているかなあということで、ありがたいご意見をいただきました。それから満足度も、たしかに最近はこれを重視しておりますが、参加者数というの、今後、重視していきたいと考えています。以上です。

**三宅委員** 雪舟スクールサポーターってその地域の方が主なんですか。遠くの方から通って来られて、車の運転ができないとかいう方は、雪舟くんの券を配ってすると、また変わってくるのかなという風に思いました。

それと、ぱっちりもぐもぐ生活向上キャンペーンですが、子育て王国実行委員会の方では、早寝早起き朝ご飯のダンスを作りまして、DVDも作っております。県立大学の新山先生が作られて、学生さんと一緒に作っておりますので、その辺りのことも活用していただけたらなと思います。

**佐近生涯学習課長** 雪舟スクールサポーターにつきましても、基本的には市内の方々ということで、なかなか特殊な特技を持っておられる方というのは、1校だけでお願いするのはもったいないと思いますので、いろんな学校に行っていただいたりとかということで、システム的にはそういう格好を作っております。

それから、ぱっちりもぐもぐでございますが、これは早寝早起き早ご飯、それから食事中NOテレビ、それから家庭学習、外遊び、テレビの時間の制限、それから早く寝るとか、それぞれ目標を立てて、その達成度を○とか△で実施するものになりますが、今仰られましたように、DVDとかそういったものも活用していきたいと思います。

**下山委員** 雪舟スクールサポーターとか、学校支援地域本部事業については、すごく活発になっているからいいなと感じているところですけど、雪舟スクールサポーターが、昨年度、年度目標500人が今年は300人になっているとか、活動数は昨年は671人だったのが、今年は386人になっているというのは今の説明で高齢者の方が増えて減ったということなのかなと思っているところなんですけど、そこら辺のことを教えて下さい。

それから、公民館の活動で、昭和公民館に図書室を設けるということが書かれていますが、どの程度の規模かなというのが一つ。それから、清音公民館にもあるようなことを聞いた気がするんですけど、清音公民館の規模と比べてどのくらいの規模になるのかとかを教えてください。地域の方以外に、もう少し離れた人も借りに行くことができるかなとか、そういうことも思ったんですけど、とりあえず規模のことだけ教えてください。

**林委員長** それに関わって他に何かありますか。雪舟とか公民館とか出てきましたけど、どうですか。関連した質問があればお願いします。

**小鍛治委員** 私も良く知らないんですけど、雪舟スクールサポーター、大変いい活動をされていて、もったいないので他の所にも行かれているというのは、これは紹介とか他の所に案内みたいなものがあったりするのでしょうか。

それと、ボランティアで行っていただいているんですけど、やっぱりそういうところに光をあてるといいますか、それだけの活動をしていての方に表彰とか、これだけしてくれているので、何か皆さん方に紹介をするような機会を与えれば、ボランティアの方も更なる気が出てくるんじゃないかなあと思うんですけど、その辺を教えてください。

**林委員長** 活動者数というのは登録者数とは違うんですね。実際この平成25年に活動された方の数なんですか。それとも登録されている人の数ですか。登録は抹消されないからどんどん増えていく。その辺どうなのかなとちょっと数字を見ていて思ったのですが。

**佐近生涯学習課長** 雪舟スクールサポーターの人数ですが、これは実際に活動した人の数ということで、実は雪舟スクールサポーターの方は、主には学校の見回りの方がほとんどということございまして、人数が実際増えた形になってはいますけれども、高齢化していつてるといのが主な要因かなと思っております。

それから、昭和の図書館、図書室の規模でございますが、今考えている中では、まだ案の案の段階ですが、清音公民館と同等か、ちょっと大きな図書室になるかなということで考えております。図書館の方も清音公民館、山手公民館と同様に、総社市の図書館と一体運用できるような形でやっていきたいと考えております。

それから雪舟スクールサポーターっていうのは、制度としまして総社市が独自に始めた制度でございますが、実際は使いにくい面も一面としてあります。生涯学習課の方でリストアップし、学校にもリストアップを紹介して使って欲しいとご案内するんですけども、学校もなかなか上手に取り入れるのが難しいところがありまして、今では学校支援地域ボランティアの方へだんだんウエイトがシフトしています。実際雪舟スクールサポーターの方がそちらの方へ登録し直しているということもございますので、そういう面ではちょっと一体となって考えないといけない部分もあるんですけど、学校支援地域本部事業のボランティアの方ではコーディネーターという人を設けまして、学校とボランティアのちょうど仲介役をしてもらいまして、学校が必要なボランティアをコーディネーターの人が探してきてくれるということで、学校にとって大変ありがたいシステムになっているのかなと思います。そちらの方の活用が進んでいるという感じはございます。従いまして、雪舟スクールサポーターは、縮小していくわけにはいかなくて、これはこれで幼稚園の方が学校支援地域本部事業というのがまだできていませんので、そちらの方で活用していつてもらうためにも、これからも続けていかないといけないかなと考えています。

それからボランティアの方の表彰ということですが、そういったことはこれから実績を記録していきながら検討していかないといけないのかなという風に考えています。以上でございます。

**山中教育長** 雪舟スクールサポーターというのは後からできました。学校支援ボランティアが先で、元々要望が多かったんです。学校から見ると、後から突然きたわけです。その代わり保険もあるとか、コンディションが良い。ただ、学校が欲しい人材ばかりじゃないから

使いにくい。だから、ミスマッチが起きている。学校地域支援本部の方がよほど使いやすい。コーディネーターが居ないと、学校ではできないんです。だからすごく使い辛いシステムなんです。佐近さんが言ったように、おそらく地域支援本部の中に全部巻き込んでいかないとうまくいかない。総社はそれでやれるんですけど、岡山市はコミュニティスクールという形でもうちょっと学校寄りのものを、コーディネーターを選んでやっています。これはコーディネーターと地域の熱心度で全然違いますけれども、うまくいっているところは非常にうまくいっているという話なので、岡山市の教育長に一度それを見に行き勉強させてほしいとお願いしています。総社の場合は、うまくいき始めたのは昭和地区学校という視点から言うといいです。学校の欲しい人材が、例えば授業に入ってきて少しサポートして欲しいとか、放課後の学習を支援して欲しいとか、いろんなニーズがあるんですけど、そのニーズをきちんと捉えずに形だけ作ったからこういうことになっているんだと思います。

**米谷委員** 地域支援本部は早島町のモデルでやっていました。県の生涯学習課もいろいろされているからそれも参考にしたらいいと思います。

**林委員長** その辺の人材をどう生かすのかということについて、なかなか課題もあるので、そこを改善していい方向に向いていってくれたらなあということをお願いします。

**林委員長** 続いて、23ページから29ページまで、学校教育についてご質問、ご意見等ありましたらどうぞ。

**米谷委員** 26ページの評価報告についてなんですけれども、目標が85パーセント以上というところで、これはどういう風に総合的に評価されたのかなあと思いました。

**東学校教育課長** 目標の設定が全国の平均正答率を上回るということと、標準化のことで二つ書いているんですけど、平均正答率を上回るというところを重視したということなんです。小学校の方は下回っているんで達成度が85パーセントというのをどう捉えるかということなんですけど、上回れていない。しかも1.9ポイントも下回っているというのはちょっと重たいかなと。そこにもう少し力を入れていかないといけないかなという思いで、この項目全体としてBということにしております。

**林委員長** 他にどうでしょうか。

**下山委員** 24ページのところでちょっと質問なんですけど、上から6行目ぐらいに、学校環境適応感の尺度の指標ということで、今年は教師サポートと友人サポートの向上がということがあったんですけど、他に感情の理解とか感情表現とか、感情のことについての適応尺度は去年はあったと思うんですけど、そういうことは今年は調べられていないのかなというのが一点。

それから、その項の下から三行目の英語教育サポーターを学教に配置したというのは今年なんですけど、去年の日本語教育サポーターを学教に配置した。それは、いろいろ外国の子供達に対してお便りとかのことを翻訳したりとかいろいろされてたと思うんですけど、そういう方が今おられるかどうかというのが二点目。

それから、特別支援教育推進のところで、今年は支援員が減って補助員が増えているというように思ったんですけど、それは、教科指導等が必要な子が減って、補助が必要な子が増えたという意味か、単に人事の面のことなのかという数的なこと。そういうことを教えて下さい。

それともう一件、去年までの特別支援教育の専門員の方の巡回相談というのが、24年度にあったと思うんですけど。それから、関係機関との連携とか、そういう形でよくしていたと思うんですけど、今回の項目の中にはそういう「専門員による巡回相談」みたいなのがなくなっていたように思ったんですけど、それについて教えてください。

それから、預かり保育についてですが、その利用者数も増えているということなんですけど、その保護者の反応と、その預かり保育の内容というのは、結局保育をしているだけですか。それとも何か年間計画に沿ってされているのでしょうかということ。

それから、小中一貫教育の先進校というのは、先ほど言われたかもしれませんが、どこでしょうかということ。

それからエピペンの活用の研修があったということですけど、市内でアナフィラシキーの子供達がいる学校があるのかどうかということをちょっと教えて下さい。以上です。

**林委員長** まず2番目の心の教育の推進と国際理解教育の充実というところで質問が2点ほどありましたけど、それに関わって何か質問をお持ちの方はいらっしゃいますか。

**東学校教育課長** まず、学校環境適応感尺度についてでございます。25年度の分の評価として、教師サポート、友人サポートの数値の向上が見られたという風にしてあります。24年度の時のここに該当する評価では、感情理解とかいう項目を挙げていました。24年度まではいわゆる「誰行き」を22、23、24年度と最初3年間やりまして、この時には、書籍にもなっているアセスという適応感尺度もやったんですけど、それとは別の、この3年間の取り組み専用の、子供への質問紙法による調査をやっておりまして、そっちの調査の方に「感情理解」云々とかいう指標がありましたので、それをピックアップして挙げておりました。25年度以降はそういう特別な調査はなくして、このアセスのみでいっていますので、このアセスというのがこの学校適応感尺度でございますので、それでいくと6つの指標しかなくて、感情理解とかそういう風なものはないんです。教師サポートとか友人サポートとか社会的スキルとか学習適応とか、そういう風な指標ですので、その中から、顕著な向上が見られたのがこの二項目ということでございます。

2つ目のご質問の英語教育サポーターですが、これは25年度から配置したものです。ALT、外国語指導助手の方々を、25年度から市の直接雇用に切り替えました。

**林委員長** 日本語指導の方は、時間給でやっているやつですか。

**東学校教育課長** 日給です。

**林委員長** では、③番の件で、これも2件ほどありますけども、他に何かご質問等お持ちの方はいらっしゃいますか。

**東学校教育課長** では特別支援教育に関するご質問についてです。まず支援員と支援補助員の人数の変更ですけれども、子供の数の絶対数が増えているということが背景にありまして、限られた予算で支援員の数をそのままにして支援補助員のみたくさん増やすということが、もう限界がありました。支援員の方が方が単価が高いですので、やはりそこを少し減らすことによって支援補助員さんを複数。支援員一人を配置しないとなれば、補助員さんが、例えば2人とかいう風に、単純にそうはいかないんですが、そういう風に何人か増やすことができるんです。授業を主になってする方でなくても、人がいないという状況よりも、授業を主にすることができないけれど、子供への介助とか補助をしてくれる人がたくさん欲しいというのが学校の方のニーズでしたので、そちらに対応する形でこういうバランスになっております。

それからもう一つ、特別支援教育専門員の巡回相談についてですが、これは24年度までは市の職員で、その専門員という者が学校教育課に正式な職員でございましたけれども、その者が退職をしまして、25年度からはこの特別支援教育に関する担当を、学校の教諭出身の方が学校教育課に派遣で配属されて、その者がやっておりますが、専門員の巡回というたてりにまではならないので、その者はその者なりに学校への巡回をしながら個別のケースのフォローもしていったるんですけど、ここの評価できちんと書き出す時に、専門員巡回とまでは言えないかなということで、今回は計上しておりません。

**林委員長** それでは④の預かり保育の内容についてお願いします。

**東学校教育課長** 預かり保育についてでございます。保護者の反応はとてもいいということで、できるならもう少し時間を延長して欲しいとか、夏季休業中等、長期休業中も預かって欲しいというようなニーズがあるという状況です。中身は預かり保育の時間を担当する預かり保育指導員という方は、幼稚園教諭の免許を持っている方という風にしております。ただ単に保育士の資格があればいいとか、あるいは資格がいないとか、そうではなくて、幼稚園教諭の資格を持った方を採用してございまして、預かり保育としての教育計画を作成し、それに基づいた保育ということをやっております。25年度でいうと16時までという範囲でしたけれども、本年度は延長して17時までということになっているようでございます。

**林委員長** では続いて⑤番目の先進校の視察ということで、先進校はどこですかというご質問ですけれども、これに関わって何かありますか。

**東学校教育課長** 広島の呉市で、自分自身が行ってないんですけど、呉中央小中学校、そういう名前だったと思います。呉市は、全ての小中学校を一貫校という風にしてございまして、多くは施設分離型ではあるんですけど、既存の施設で近い所をくっつけてというやり方なんですけども、一つか二つだったと思うんですが、施設も一体になった、完全に場所も一緒になった小中学校というのがありまして、そこと分離型とそれぞれに分かれて、最初市教委の説明を聞いた後で二手に分かれて両方の見学に行かせてもらっています。

**林委員長** 本当は、児童数とか生徒数が少なくなったのでいっぺんにしてしまえば、教職員

の数も効率よく配置できるかなというような発想もあるように聞いております。従って、義務教育免許、小学校、中学校とかそういう形の一体免許ということも視野に入れながらやっていると聞いておりますけれども、要は効率よく効果的にということが大事じゃないかなと思います。ですから、そういうことも視野に入れながら前に進めるという話になるんですかね。

**林委員長** では⑥番目のアレルギーについて質問はありますか。

**東学校教育課長** アレルギーの対応につきましては、何年も前から小学校に上がる時とか中学校に上がる時とか転入の時に、アレルギーに関する連絡書というものを、該当の方には必ず出していただくようにしております、それを受けて学校医さん等とも連絡をとって情報を共有して、職員同士でも情報共有をして、対応マニュアルを作って対応するというをやっております。エピペンが必要なお子さんが何人も幾つもの学校にいらっしゃいますし、それからアナフィラシキーで連絡書を出している人もおります。春にはマスコミの取材もちょつとありまして、結局、北小学校にアレルギー対応の様子を取材してもらって、テレビで流して下さったというのが、小さな夕方のニュースですけど、ありました。清音小学校とか神在小学校とかでは、特にこのエピペンを実際使う状況になった時にどう動くか、それぞれの立場の人がどう動くのか、誰がどういう連絡を取って動くのかというのを実地訓練のようなことしながら研修をしているということです。

**林委員長** それでは、34ページの文化課の関係から、何かありましたら。

**米谷委員** ②の総社市文学選奨なんですけど、どういうところに配布されているのかを教えてください。というのが、この間歯科に行ったんですけど、ちょうど待合室に置いてあって、ああいう所に置かれていると非常に見て楽しむのと同時に、ご自分で創作されて応募されるのかなと思ったものですから。

**谷山文化課長** 文学選奨の配布先なんですけど、基本的には図書館、公民館、それからもちろん応募された方には全員お配りさせていただいております。ただ、見る機会というのが図書館であるとか、そういうところが主になろうかと思っておりますので、なかなか目に触れる機会っていうのが少ないかと思っておりますので、その辺はもう少し工夫していきたいと思っております。

**林委員長** 他にございますか。

**三宅委員** 吉備路文化館の方に他市の友達と「雪舟の生涯」を一緒に行きました。そしたら、こんないい所があるのにPRとか看板が少ない。そういえば駐車場辺りに大きい掲示板があって、吉備路文化館こっちだ、こうもり塚古墳こっちだとか、山手の役場の址があるとか何とか、大々的なPRがあって今雪舟のことをしていますとか、高木聖鶴先生のこんな所がありますよとかいうのが駐車場辺りで見えて、そっちへ行こうかなと考えられるような看板があれば分かりやすいなという話を聞きました。

**谷山文化課長** この吉備路文化館、4月にオープンして以後、やっぱり表示が少ないということは言われておまして、つい先週ぐらいに駐車場等、それから道案内とかの看板がやっ

とついたところでございます。先ほど言われた催し物の案内等を、国分寺の北の駐車場に大きめの看板を作りまして、そこにその時やっている催し物が入るような工夫をしたものを設置したところでございますので、それで少ないようであれば、また今後考えたいと思いますので、教えていただけたらと思います。

**林委員長** それでは次に、35ページから41ページ、生涯学習課の関係で何かございましたらどうぞ。

**小鍛冶委員** ③番の総社市長杯、中学校軟式野球大会、8チーム以上というのが目標で、7チームで評価がBというのは、これは、やっぱり8チーム以上揃うのがほとんど当たり前みたいなことで評価がBになったのか。どういうチームで、例えば時期が悪かったからできなかったのか、何か理由があれば教えて下さい。

**佐近生涯学習課長** このBというのは間違いでございまして、評価の基準でいきますと、85パーセント以上達しているということですので、Aということで直しておいていただけたらと思います。

**林委員長** 普通は8チームがだいたい出られるんだと思うんですけど、1チーム減ったというのは何か理由があるんですか。

**佐近生涯学習課長** このチームの選び方なのですけど、市内に3中学校に野球部があります。昭和中だけないのですけれど、あと5チーム確保するというので、中体連の野球の理事の先生方が決めていただいてということで、基本的に8チームで行いたいところなんですけれど、なかなか中国大会に出場したりするとかいろんな条件が出て、たまたま7チームになったりというのがあったり、急に出来なくなったりということがあったりしましてこのような結果になりました。なかなか目標設定する材料としてはあんまりよくなかったかもしれません。できるだけこの野球大会は、3年生最後の大会ということで、3年生の方に出ただけたらということで考えてやっております。

**林委員長** 他にございますか。

**米谷委員** 36と37、表と全体の概要のところがちよっとうまく噛み合っていないような雰囲気があるので、どちらかに統一されるというか前の生涯学習のところが非常に見やすかったのが、見栄えが変わっていたり項目名が違ったりというのがちよっと直してもらったと思います。

それからもう一つは、大項目が3つ、生涯スポーツの推進、世代に応じたスポーツ活動の展開、協議力の向上、この3つの柱になっていきますけど、内容的に1と2で重なる部分って非常に多いので、次年度以降でいいんですけども、生涯スポーツの推進と、競技力の向上、だいたいスポーツってこの二本柱でいけるのかなと思います。

あと最後なんですけど、スポーツを推進していく時に、だいたい4つの項目があるんですけど、1つは場所の提供、エリアサービスというのがあります。これは非常にスポーツに関わる気持ちが高い方。場所さえあれば十分発展するので。2つ目が昨日のスポーツ祭じゃない

ですけど、プログラムを提供する。教室とか大会とか、プログラムがあればスポーツをやってみようかというので関わるとか。3つ目がクラブサービスで、この項目の中にも体育協会とかスポーツクラブとかありますけど、そういう集団を作ってあげるという方法。4つ目が情報提供でインフォメーションサービス。この4つの視点で整理されると非常に分かりやすくなるんじゃないのかなと思いますので、次年度以降そういう整理と目標を設定できれば、生涯スポーツの振興と競技力の向上により分かりやすくなるんじゃないかなと思います。

**佐近生涯学習課長** 噛み合っていなかった部分があり、申し訳ありませんでした。それから、先ほどの生涯スポーツの推進について、世代に応じたスポーツ活動の展開、教育力向上。これは基本計画の方に基づいてこういう構成にしているのかなと思いますが、ちょっと参考にさせていただきたいと思います。それから、今ご指摘のありました4つの視点というのは今後検討させていただきたいと思います。

**林委員長** 他にございますでしょうか。

**下山委員** 40ページの人権教育についてなんですけれど、去年も一緒だし、私達の頃も一緒だったので、ちょっと聞いたことがない人が行ってみたい形になってくるのが現状だったんです。それで課題のところにあるような形を私は取り入れて欲しいなど。インターネットの問題でありスマホの問題であり、そういう今の課題、必要性のあるものを入れていただくと、親であり先生方も参加するのに意義があるのではないかなと思っていますので、よろしくをお願いします。

**佐近生涯学習課長** 近々の課題の方をテーマにしていくように、担当の方にも話していきたいと思います。

**林委員長** 他にどうでしょうか。

続いて、庶務課関係の教育施設整備拡充について。

**米谷委員** ①～⑥までの項目があるんですけど、表の方に⑤がないんですが、それは何かあるのですか。

**佐近生涯学習課長** 5番の体育施設整備充実ということで、目標として掲げていませんでした。特に大きな整備するものっていうのは修繕とかで、目標というものを設定していませんでした。

**林委員長** 他にございますか。よろしいですか。

ありがとうございました。視点として1番いいのは昨年度と比べて新規の事業というか、単発のやつや継続的なやつがあって、その辺のところをどう表現するのかとなった時に、経年変化というか、そういう表も入れていただいたら、よりいっそうその施策の持つ意味というか、皆さんの努力というのがよく分かるんじゃないかなという気がしますので、表、グラフ、そういうものをちょっと入れてくれたらいいんじゃないかなと思いました。

**林委員長** それでは、議案第22号について可決してよろしいか。

(意義なし)

**林委員長** ご異議がないようですので、議案第22号については可決しました。

**林委員長** 次に議案第23号「総社市教育委員会表彰について」事務局から説明願います。

**佐近生涯学習課長** 【事務局説明】

**林委員長** ただいま事務局から説明がありました議案第23号について質問はありませんか。  
(質問なし)

**林委員長** お諮りいたします。

議案第23号については、原案のとおり可決してよろしいか。

(異議なし)

**林委員長** ご異議がないようですので、議案第23号については原案のとおり可決しました。

なお、教育委員会表彰につきましては11月4日(火)の午前10時から、福祉センター2階の教養研修室で行いますので、委員の皆さま方にはご出席をお願いいたします。

**林委員長** 次に、教育長の報告をお願いします。

**山中教育長** 今回10月2日に県の市町村教育長協議会がありまして、そこで2件のテーマが協議されました。一つは地域支援、先ほど話がありました、地域支援の話です。それからもう一点は、小中学校の再編整備、統廃合の話でした。地域支援については、先ほども申し上げましたように、岡山市がコミュニティスクールというのをやっている。その辺が少し県の指導と違うところなんですけれども、独自にやっています。その中で総社市はかなり進んでいる。先ほどの地域支援本部も今年あと2校、2つできますから、それで全て完了です。あとは幼稚園をどうするかという話が残っています。あとはもう少し中身を充実して、本当に学校のサポートになるような仕組みを作っていく。人数だけではなくて、キーはやはりコーディネーターを誰がやるかということだと思います。それから小中学校の統廃合、再編につきましては、笠岡市が今真っ只中でして、離島の小学校は統廃合して、中学校は残すというんですけれども、かなり今大変な状況にあるということでした。津山市は平成22年度に基本方針というものを作って、規模の最適化基準というのがあるんですが、それに則ってやっていくと。地域の抵抗も強いんですけど、頑張っているという話です。新見も同様で、他の方はだいたいこういうコンディションです。

それから、竹井教育長と、それから黒田市長。玉野市で話があったんですけど、黒田市長が本来言いたいことはなかなか言えなかったようです。竹井教育長が来られているので、本来は竹井教育長に物申したかったようですけれども。

竹井さんのコメントは幾つかあるんですが、子供の安全をきちっと守る、未然災害対策の訓練をやりなさいと。市町村の教育委員会を教育次長が全部訪問したんですけど、これを来年度予算に反映すると。10月6日にその討議をやって、私が出られない日だったので、次長に行っていました。後で次長から話していただきます。

それから、頑張る学校応援事業については、80校区が申請されて、そのうち30校を選んで10月17日に発表するということです。それから全国学力テストについては、落ち着

いた学校作りをするように、基礎、基本をしっかりやりなさいとか、教員の指導力向上を図りなさい、家庭学習をしっかりやらせましょう、放課後学習を学校内でやりましょうとか、こういう話でPTAの協力を得たい、声をかけるように努力して欲しいとか、県もガイドラインを出すとか、そういう話をされてきました。それと極めつけは、校長、教員の意識改革をして欲しい。もっと学力重視をするようにという話でありまして、議論は全然できなくて、言っぱなしで帰られたのですがこの辺は気になるころではあります。

もう一点、来年の四月から教育委員会制度が改革されて、総合教育会議がスタートします。これは公開でやるんですけれども、県はこの事務局を教育委員会でやることを提案するという話をされました。以上です。

**矢吹教育次長** 先ほどの教育長のお話を受けて、10月6日の県の教育長と市町村教育長の意見交換会が県庁の3階であったんですが、教育長はご都合が悪かったので、代理で出席いたしました。主な内容が先ほど言われていました、27年度の重点政策についてでありましたが、このたびの全国学習状況調査の成果を踏まえての対応ということについても、ちょっと述べられておりました。特に今回の学力テストの結果を踏まえての緊急の取り組みとしては、一点目がまず、10月からテストの結果の悪い学校へ学習支援員を緊急配置するという事。それから二点目として、部活動の毎週一日休止というのを早速取り組みたいということで、しかも一日休んで部活単位で学習する機会を作っていくというようなことで、中体連と校長会との調整を今県の方で行っているようなこと。それから三点目として、先ほどお話にも出ましたが、スマホやゲームの夜間制限を打ち出していくということで、県としては条例での対応も視野に入れて、この三点取り組んでいきたいというようなことと言われていました。他にも家庭学習、補充学習充実とか、振り返りとか確かめテストの活用とかのことが述べられておりましたけど、どうもちょっと目の前の対処療法が多いかな、抜本的な取り組みというところがちょっと弱いのかなという感じはいたしました。それから、27年度の重点政策についてのお話がありましたが、落ち着いた学習環境作りや学力の向上といったテーマで事業示されておりますが、多いのはやっぱり現状の取り組みの継続なり拡充というようなことで、新しい取り組みというのがあんまり多くはなくて、ちょっと覇気は感じられてないなという感じがいたしました。ただ、主張されていたのは先ほどちょっとお話に出ましたが、伊藤次長の方から県内の全市町村の教育長を訪問して意見や希望を聞いたから、それについてできるだけ答えましたよということは強調されておりました。この重点政策について改めて事務担当者向けの説明会が開催されますので、必要に応じて取り組んでいくようなものがありましたら、またご報告させていただきたいと思います。

それからもう一点、本日なんですけれども、青山学院大学と総社市の連携協力に関する協定の締結式というのが、今日2時から行われます。総社市と青山学院大学の協定ということで、私立の県外の東京の大学との連携協定ということで、特徴的なものだろうと思いますが、今想定されているものは、インターンシップの学生や、こちらの方出身の学生のボランティ

アの受け入れができるかなというようなこと。それから、英語教育なり何なりということで、総社市の教員を対象にした英語教育の研修といったようなものが考えられないかというようなこと。それから、大学のサークルの合宿の誘致とかというようなことがこれから想定される事業かな、研究していこうかなというようなことを担当の方は申しております。今日は学長がお一人で来られまして、協定締結した後、維新小学校を訪問して中学年の英語の授業参観を行うこととしております。事業につきましては、これから詰めていくということで、ひとまずそういったことがあるということをお伝えしておきます。

**林委員長** 次に、「報告事項等」に移りますが、まず「全国学力・学習状況調査結果と対応策について」事務局から説明をお願いします。

**東学校教育課長** 学力テストの前に先ほどの事業点検評価でご質問のあった件なんですけど、食物アレルギーアナフィラシキーの連絡書を出している子供の数なんですけれども、25年度の数はないんですが、24年度は調べた数字がありまして、小学生は2.88%、ざっと100人くらいだと思います。それから中学校は1.90%。24年度についてはそのくらいの割合の子供が食物アレルギーアナフィラシキーの連絡書というのをお医者さんに記載してもらって学校に提出している。そのくらいの該当の子がいるということです。

**東学校教育課長** 【事務局説明】

**林委員長** ただいまの事務局の説明に対するご意見、ご質問等はありませんか。

ニーズを学校から出してもらった方がいいですよ。こういうことをやりたいんですけど。

**東学校教育課長** 頑張る学校応援事業の県の分にも総社中学校区としてエントリーされて、本当はそこでお金がいただければ、それを使ってやろうと思っていた内容の一つなんです。学力向上のために、各学年毎に学力の状況を把握するためにテストを行うという。それがちょっと叶わないような見通しなので、そうしたら市の方で新たな予算でフォローしようかということでございます。

**林委員長** 次に「体育施設管理者との懇談会について」事務局から説明をお願いします。

**佐近生涯学習課長** 【事務局説明】

**林委員長** ただいまの事務局の説明に対するご意見、ご質問等はありませんか。

**米谷委員** 体育施設の運営委員会みたいなものはあるんですか。定期的にこういう懇談会があるんですか。

**佐近生涯学習課長** 指定管理者コナミとは毎月一回ミーティングは行っております。

**米谷委員** 利用者の方とは行っているのですか。

**佐近生涯学習課長** 利用者の方のっていうのはありません。

**米谷委員** 僕、実は渋川の自治体の運営委員をやってるんですけど、いろんな方面から利用者の方々の意見を吸い上げて、指定管理者の方に提案するとかということを定期的にやられると、より一層施設が使いやすく運営されるのではないかなと。

**佐近生涯学習課長** アンケートとかはコナミの方でやっています。

**林委員長** 次に「昭和公民館移転新築事業について」事務局から説明をお願いします。

**佐近生涯学習課長** 【事務局説明】

**谷山文化課長** 【「赤米サミット」，「文化館（高木聖鶴常設展）」，「芸術祭の進捗状況」について報告をした。】

**林委員長** 三点まとめて説明していただきました。これについて質問等ございますか。  
(質問なし)

**林委員長** 他に報告事項等はありませんか。

**東学校教育課長** 【学校園の研究発表会の案内について説明した。】

**林委員長** 他に報告事項等はありませんか。

**林委員長** それでは、次回の教育委員会の日程についてであります。既にご承知のとおり、11月27日午前9時から開催いたしますので、ご参集願います。

**林委員長** この際、12月の教育委員会の日程を調整 いたしたいと思いますが、事務局から提案願います。

(12月の教育委員会について日程調整)

**林委員長** では、12月の教育委員会は、12月19日午前10時から開催いたします。

では、これで審議がすべて終了いたしましたので、本日の教育委員会を閉会いたします。

閉会 午後0時12分